

ECC 日本語学院新宿校

自己点検及び評価の内容報告書

2022年10月1日
ECC 日本語学院新宿校
自己評価委員会

1. 2022年前期(2022年4月～2022年9月)の振り返り

1. 学校理念・教育目標に沿った授業の展開

- ・新年度より入国制限が緩和され、学生数にも復調の兆しが見られたが、まだまだコロナ前のように行かず、クラス編成や授業進行には引き続き創意工夫を必要とした。
- ・前年度に続き4月期も、入国待ちの学生と教室をつなぐハイブリッド授業を展開、途切れることなく「学びの場」を提供し、入国後のスムーズな授業進行へとつなげることができた。
- ・定期的に講師ミーティングを実施し、教育理念・教育目標を確認し、周知徹底に努めた。
- ・定期的に学習者アンケートを実施し、学校や授業に関する要望を把握、教育内容の検証を行った。
- ・日本語能力試験のみならずJPT等その他の試験も推奨し、日本語能力を証明する機会を増やした。

2. 日本語試験の取得状況

- ・7月のJLPT日本語能力試験において、N2受験者2名共に合格し、合格率100%を達成した。
- ・9月のJPT日本語能力試験において、受験者1名が665点(N1相当)を取得した。

3. オンライン授業教材の研究・開発

- ・昨今のオンライン授業希望者の増加を受け、システム研究、新教材の開発、カリキュラム作成を行った。

2. 2022年後期(2022年10月～2023年3月)の重点的取り組みと計画

1. 学校理念・教育目標に沿った授業を展開する

- ・講師便覧ミーティングや定期的なミーティングにより、学校の教育理念・教育目標の周知徹底に努める。
- ・定期的に学習者アンケートを実施し、学校や授業に関する要望を把握、教育内容の検証を行う。
- ・日本語能力試験のみならずJ・TEST等その他の試験も推奨し、日本語能力を証明する機会を増やす。
- ・半期に一度授業オプザブを実施し、教育目標に沿った授業が実現できているか確認する。

2. 学習者の「自己実現」を支援する

- ・進学希望者には進路相談、入試対策を行い、希望校に確実に合格できるようバックアップする
- ・就職希望者には就職相談、履歴書指導、模擬面接を行い、希望企業合格に向けてサポートを行う。
- ・日本語能力の証明となる各種試験の受験を推奨し、受験者全員の合格を目指す。特に進学・就職時の一定基準とされる JLPTN2については合格率 100%を達成する。
- ・日本での生活に必要な知識、マナー、文化、慣習などを含めた「社会とつながる日本語」を提供する。
- ・学習者自らが日本語で必要な情報を収集し日本語を用いて行動できる「日本語リテラシー」を育成する。

3. 様々な背景を持つ人々との相互理解を促進する

- ・学習者全員が毎学期プレゼンテーションを実施、発表者として表現力・発信力を養うとともに、傾聴者として異文化理解や他者への理解を深める。
- ・講師やスタッフのみならずグループ会社従業員と会話できる機会を可能な限り創出する。
- ・図書室・ラウンジの開放によりグループ校の日本人学生との交流の場を提供する。
- ・コロナ禍の社会情勢を鑑みつつ、ゲストスピーカーを招いた交流会や「雛祭り」「抹茶体験」などの体験イベント、校外学習を可能な限り実施する。

4. 告示基準を遵守し、信頼される学校運営を行う

- ・出入国在留管理局の通達および最新の告示基準を常に点検・確認し、実行に移す。
- ・入管オンラインシステムを活用した定期報告を実施する。

3.教育理念

【本学の教育理念：3つの柱】

◆学習者主体のレッスン

新しい知識を受動的に教わるのではなく、自らの表現＝「私の日本語」を、自ら習得することをバックアップします。

◆「日本語学習が楽しい！」と感じられるレッスン

楽しさこそが、語学習得のカギです。ECCは楽しく実になる授業を追求しています。

◆実生活とダイレクトにつながるレッスン

教室で起きていることが、そのまま実生活でのコミュニケーション力向上に、もちろん、進学や就職にも結び付く、これが私たちが志向する授業です。

【教育目標】

◆学習者の「自己実現」支援

- ・日本語学習を通じて夢や目標を達成しようとする学習者に敬意を持ち、ひとりひとりの「自己実現」が果たせるよう、全力でバックアップします。
- ・言語としての日本語教育に留まることなく、日本で社会生活を送る上で必要な常識、マナー、文化、慣習などと絡めた「社会とつながる日本語」を提供します。

◆「共生社会」実現に貢献する学校

- ・全国有数の外国人集住地域「新宿」に構える日本語学校として、様々な背景を持つ、国籍が異なる人々との相互理解に力を入れ、共に歩み発展する「共生社会」実現に貢献する学校を目指します。

【ECC建学の理念】

本学は外国語教授を通じて、近代的なセンスと国際的な感覚を持った社会に実際に活躍でき得る有用な人材を育成しようとするものである。以て国際間の人々の交流と相互理解を促進し、世界の文化向上とその恒久平和樹立に寄与したい。

4.評価項目の達成及び取組状況

(1) 実施時期

年に1度、5月に実施予定。

※これまでは「新規校」であったため、学校の適正確認の頻度を半期に1度設けていたが、2022年4月期の学生受け入れより「適正校」として認定されたため、今後は年に1回の点検とする。

(2) 実施方法

株式会社ECCの役員等からなるECC日本語学院新宿校自己評価委員会を代表して校長が実施、結果を設置代表者及び経営担当役員への報告、承認後、学院のホームページを通じて公表する。

(3) 実施体制

教務担当者(教務主任兼校長*と専任講師)による点検実施後、事務職員代表者及び校長が再度点検し、最終判断をする。速やかに設置代表者及び経営担当役員へ報告する。

*注 以下「教務主任兼校長」を「校長」と省略する。

1. 評価項目

(1) 教育理念・目標

評価項目	適切…4、ほぼ適切…3、やや不適切…2、不適切…1
------	---------------------------

1 学校の理念・教育目標は定められているか	④ 3 2 1
2 本年度の教育目標・計画は定められているか	④ 3 2 1
3 学校の理念・教育目標は教職員に周知されているか	④ 3 2 1
4 学校の理念・教育目標について、入学を検討している学生・保護者、留学仲介業者に告知する努力をしているか	④ 3 2 1

項目1, 2, 3に関して、本学の教育理念は「総合教育機関 ECC 建学の理念」に基づき①学習者主体のレッスン②「日本語学習が楽しい」と感じられるレッスン③実生活とダイレクトにつながるレッスンと定められている。教職員については、新年度開始前に行われる講師便覧ミーティング*、および各学期間に行われる講師ミーティングにて周知徹底している。

項目4に関して、学生・保護者に対しては、学生募集説明会およびオンライン説明会の段階から告知・説明を行い、その後入学を希望する学生に対しては、リモート面接を通じて個別に告知・説明を行っている。

*注 本学では新年度開始前の講師ミーティングを「講師便覧ミーティング」と呼称する。

(2) 学校組織

評価項目	適切…4、ほぼ適切…3、やや不適切…2、不適切…1
5 設置者・設置代表者・経営担当役員の適合性	④ 3 2 1
6 組織が適切に運営されているか	④ 3 2 1
7 校長・教務主任の適合性はあるか	④ 3 2 1
8 校長・教務主任・専任教員・非常勤教員の職務内容と責任基準は明確か	④ 3 2 1
9 教育目標達成のための知識と能力があるか	④ 3 2 1
10 生活指導担当者の職務内容と責任基準は明確か	④ 3 2 1
11 入管事務担当者の職務内容と責任基準	④ 3 2 1
12 取次申請者の配置	④ 3 2 1
13 教員の採用条件と雇用条件が明確である	④ 3 2 1
14 職員の採用条件と雇用条件が明確である	④ 3 2 1
15 教員の研修が行われている	④ 3 2 1
16 職員の研修が行われている	④ 3 2 1

項目5に関して、告示校の条件に合う校長・生活指導担当者・入管事務担当者・教務主任・専任教員・非常勤教員を配置し、変更があれば入管に報告している。

項目6に関して、コロナ禍においては今後も不測の事態が想定されるため、ワクチン接種日翌日及び翌々日の担当授業を調整する等様々なケースを予め想定し準備しておくように努めている。

項目15, 16について、職員の研修については、株式会社 ECC の社員としての研修を行っている。教員の研修については、教務担当者(校長または専任講師)が授業オブザーブを実施、教員の授業の質を維持している。また、外部主催のオンライン研修等にも積極的な参加を促している。

(3) 教育活動

評価項目	適切…4、ほぼ適切…3、やや不適切…2、不適切…1
17 教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか	④ 3 2 1
18 修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか	④ 3 2 1
19 学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか	④ 3 2 1
20 授業評価の実施・評価体制はあるか	④ 3 2 1
21 成績評価・単位認定、進級・修了判定の基準は明確になっているか	④ 3 2 1
22 進学に対する指導体制はあるか	④ 3 2 1
23 告示校条件を満たす教員数を確保しているか	④ 3 2 1
24 告示校条件を満たす専任教員を確保しているか	④ 3 2 1
25 適切なクラス編成を行っているか	4 ③ 2 1
26 教員に対して、指導に必要な情報を伝達しているか	④ 3 2 1

27 修了証書授与の条件について、説明、明示されているか	④ 3 2 1
28 授業にあたってはロールブックに出席状況、成績状況が記載されているか	④ 3 2 1
29 授業にあたって学生からの要望を聞く場を設けているか	④ 3 2 1

項目17, 18, 19について、カリキュラムは授業方針に従い体系的に組み立てられており、各シラバスは学習者が目的に到達できるよう、綿密に編成されている。

項目25に関して、外国人留学生の入国制限が解かれたものの、運営上理想的なクラス編成を行うにはまだまだ厳しい状況が続いた。対応策として、通学クラスの学習者と海外の学習者をオンラインでつなぐハイブリッド授業を行い、入国後のスムーズなクラス編成につなげた。

項目29に関して、学生からの授業評価・要望については、3カ月に一度を目安に行っている個別カウンセリングの他、教員室に講師の常駐体制を整え、日常的に学生の声を聞き、改善に努めている。

(4) 成果

評価項目	適切…4、ほぼ適切…3、 やや不適切…2、不適切…1
30 日本語能力試験の合格率の向上を図り、その結果を把握しているか	④ 3 2 1
31 進学希望者の全員進学を目指し、その結果を把握しているか	④ 3 2 1
32 日本留学試験の成績向上を図り、その結果を把握しているか	④ 3 2 1
33 その他学生が望む卒業後進路についてのサポート体制があるか	④ 3 2 1

項目30に関して、学習者の日本語能力、習熟度に合わせたクラス編成を行い、中級以上のクラスについてはカリキュラムにN3・N2・N1対策授業を組み込んでいる。なお今期(7月)N2受験者の合格率は100%であった。

項目32について、今年度卒業予定の学生に該当者は無いが、新たに入学した学生については成績管理と結果の把握に努めていく。

項目33について、日本での就職を希望する学生については、履歴書の書き方から面接練習まで、教職員が適宜サポートしている。また、学習者が気軽に相談できる体制を整えている。さらに、就活フェアの案内や外部の就職紹介会社の紹介も行っている。

(5) 学生支援

評価項目	適切…4、ほぼ適切…3、 やや不適切…2、不適切…1
34 入学時に入国オリエンテーションを行い入管知識・日本の法律について指導しているか	④ 3 2 1
35 入学時に生活オリエンテーションを行い学生生活について指導をしているか	④ 3 2 1
36 進路・就職に関する担当者は決まっているか	④ 3 2 1
37 進学希望の学生に対して、進路決定までのながれについて説明がされているか	④ 3 2 1
38 学生相談に関する体制は整備されているか	④ 3 2 1
39 学生の健康診断は定期的に行なっているか	④ 3 2 1
40 新入生に対しての住宅の提供は十分に行なわれているか	④ 3 2 1
41 アルバイトに関する指導及び支援を行っているか	④ 3 2 1
42 交通事故等での保険等の手続き支援を行っているか	④ 3 2 1

項目34に関して、学生の入国前にZoom等を通じて入国上の注意や移動方法、待機期間等について詳しく説明・指導している。

項目35, 36に関して、入学時に入国・入学オリエンテーションを実施している。入国オリエンテーションでは入国管理に関する知識や日本の法律のうち学生に直接関係するものについて指導している。入学オリエンテーションでは、学生生活に関する規則等を指導し、遅刻・欠席の扱いのほか、災害時の行動についても指導している。また、コロナ禍においては特に感染防止対策や万が一感染した際の行動について、詳しく説明・指導している。

項目38に関して、進学就職相談に関しては、担任講師及び教務担当者が適宜声をかけ、話しやすい状況を作っている。生活相談についても、教員室に講師が常駐し気軽に相談できる体制を整えているほか、「東京多言語相談ナビ」「FRESC ヘルプデスク」など外国人相談センターの紹介も行っている。コロナ禍では新型コロナウイルスワクチン接種の予約方法や接種時の注意など適宜サポートを行っている。

項目41について、学校に持ち込まれたアルバイト情報は校内に掲示している。アルバイトが決まった場合、学生にアルバイトの勤務先名、勤務先責任者名、業務内容、勤務時間を申告させている。

(6) 教育環境

評価項目	適切…4、ほぼ適切…3、 やや不適切…2、不適切…1
43 校舎校地は告示校の条件を満たしている	④ 3 2 1
44 教室は、学習に適した環境である	④ 3 2 1
45 自習室が備わっている	④ 3 2 1
46 学生用の図書が整備されている	④ 3 2 1
47 防災に対する体制は、整備されているか	④ 3 2 1
48 避難訓練は定期的に行われているか	④ 3 2 1
49 学校近隣の避難所などの情報提供は行われているか	④ 3 2 1

項目44に関して、各教室、自習室には学習者・教職員が自由に使用できるWi-Fiを設置している。コロナ禍において学習環境を清潔・安全に保つため、各教室、自習室には空気清浄機(兼加湿器)を設置しているほか、アルコール消毒液の提供、定期的な換気や机、備品等の消毒も行っている。

項目47～49に関して、入学時のオリエンテーションで、地震他の災害時についての避難行動について説明を行い、学校近隣の避難所への地図も配布している。また各教室にも避難所マップ、校舎ビル入口にはハザードマップを掲示している。

(7) 学生の受入れ募集

評価項目	適切…4、ほぼ適切…3、 やや不適切…2、不適切…1
50 理念・教育目標に沿った学生の受け入れ方針を決め、募集活動を行っているか	④ 3 2 1
51 入学希望者に学校について、入学手続きについての情報が提供されているか	④ 3 2 1
52 入学選考料・入学金・学費についての金額、納付時期について説明がされている	④ 3 2 1
53 学費の返却規定が定められ、募集要項・ホームページ等に記載されている	④ 3 2 1
54 海外のエージェントの選択にあたっては慎重に行われているか	④ 3 2 1
55 入学選考にあたっては、選考方法が定められているか	④ 3 2 1
56 提出された書類は慎重に審査を行っているか	④ 3 2 1

項目50、51に関して、学生募集広報活動においてホームページ、パンフレットなどへの掲出内容や説明表現については、その真実性、明瞭性、公平性、法令遵守等について、企画広報担当が常時配慮するとともに、入学希望者に十分な判断材料を提供できるよう、学内でのチェック体制も整備している。応募者に対しては、全員に直接面接またはリモート面接を行い、学校についての情報を伝達するとともに、日本語学習の準備状況を確認し、入学までの学習についての指導を行っている。

項目52に関して、入学希望者や経費支弁者に対し、募集要項やその説明の機会を通じて学費や諸経費の説明を行っている。

項目55に関して、入学希望者には全員オンラインによる面接を行い、学校の教育理念・教育目標、学校情報を伝達するとともに、校長及び常勤講師が日本語能力を確認している。また、入国後スムーズに授業が受けられるよう、必要な日本語学習についてアドバイスを行っている。

(8) 入国・在留関係に関する指導及び支援

評価項目	適切…4、ほぼ適切…3、 やや不適切…2、不適切…1
57 入管業務担当者は、研修に出席すること等により新しい情報を取得している	④ 3 2 1
58 入管法上の留意点について学生に指導している	④ 3 2 1
59 在留に関する情報を学生に伝達している	④ 3 2 1
60 新入生が速やかに入学後の在留カード登録を行なうように指導している	④ 3 2 1
61 新入生が速やかに健康保険に加入するように指導している	④ 3 2 1

62 帰国を控えた学生に帰国時の手続きについて指導をしている	④ 3 2 1
63 不法在留者、資格活動違反者を発生させていない	④ 3 2 1

項目58, 59, 60, 62について、入国した学生には入国オリエンテーションを行い、入管法上の手続きについて指導している。資格外活動についての注意事項も周知徹底させている。また、活動状況を記録し、保管している。ビザ更新時、日本語学習の修了時についても、入管法に則った手続きに漏れが無いよう最大限の指導をしている。

(9) 財務

評価項目	適切…4、ほぼ適切…3、 やや不適切…2、不適切…1
64 中長期的に学校の財務基盤は安定しているといえるか	4 ③ 2 1
65 予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか	4 ③ 2 1
66 財務について会計監査が適正に行われているか	④ 3 2 1
67 財務情報公開の体制整備はできているか	④ 3 2 1

項目64, 65に関して、新型コロナウイルス禍の中、中長期的に安定した経営基盤を構築するための努力と経費効率化を図っており、海外からの留学生・短期入国者の受入れが戻りつつあるが、安定しているとは言い切れない状況であった。現状を踏まえつつ、受け入れの更なる拡大を予定している。グループ内の日本語学院と連携した「日本語学院プロジェクトチーム」を設置し、オンライン授業の充実や新商品の開発も継続的に行っている。

(10) 法令等の遵守

評価項目	適切…4、ほぼ適切…3、 やや不適切…2、不適切…1
68 関係法令等の遵守と適正な運営がなされているか	④ 3 2 1
69 個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか	④ 3 2 1
70 自己評価の実施と問題点の改善を行っているか	④ 3 2 1
71 自己評価結果を公開しているか	④ 3 2 1

項目68に関して、ECCグループ全員が共有すべき普遍価値として「コンプライアンス・ガイドライン」が定められ、それらを誠実に実行するための行動基準として「役員・従業員行動規範」が明文化されている。また、役員をメンバーとする「コンプライアンス委員会」「リスク管理委員会」「情報セキュリティ委員会」も設置し、法律の専門家を顧問として配置するなど、法令等を遵守する体制を構築している。

項目69に関して、個人情報の取り扱いについては、「個人情報保護に関する基本方針」「情報セキュリティ規程」「個人情報管理規程」を策定し、情報流出等を防止する厳重なセキュリティ対策を維持するとともに、個人情報取扱マニュアルをもとにした職員への教育を継続的に実施している。

(11) 地域貢献・社会貢献

評価項目	適切…4、ほぼ適切…3、 やや不適切…2、不適切…1
72 日本語学院新宿校の資源・施設を利用した地域貢献・社会貢献を行っている	4 ③ 2 1
73 地域住民との交流を実施している	4 ③ 2 1
74 学生ボランティア活動を支援している	4 ③ 2 1

項目72, 73, 74に関して、コロナ禍のため、地域住民との交流は未だ実施できていない。コロナ禍終息を待って、近隣の町内会などとコンタクトを取り、交流の場を作っていく予定である。また、学生ボランティア活動などについても、昨今の情勢下具体的にどのように取り組んでいけるか引き続き検討を重ねていく。